

ORACLE DATABASE 11G ORACLE WAREHOUSE BUILDER ENTERPRISE ETL オプション

主な機能と利点

ORACLE WAREHOUSE BUILDER

- 抽出、変換、およびロード機能 (ETL と E-LT は 1 つのツールでサポート)
- 個別データ・ソースからのデータ統合
- 従来システムからのデータ移行
- リレーショナル構造やディメンション構造のデータ・モデリング
- 企業メタデータの設計と管理
- 高品質情報を提供するためのデータ・クレンジング
- プロファイリングとデータ品質監査

Oracle Warehouse Builder 11g Release 1 は、あらゆるデータとメタデータの管理に対応する総合ツールです。データ品質、データ監査、リレーショナル・モデリングと次元モデリングの完全な統合、およびデータとメタデータのライフ・サイクル全体の管理を提供します。

Enterprise ETL オプション

Oracle Warehouse Builder 用の Enterprise ETL オプションは、Oracle Database Enterprise Edition の一部として Oracle Warehouse Builder と同時に購入できるオプションの 1 つです。

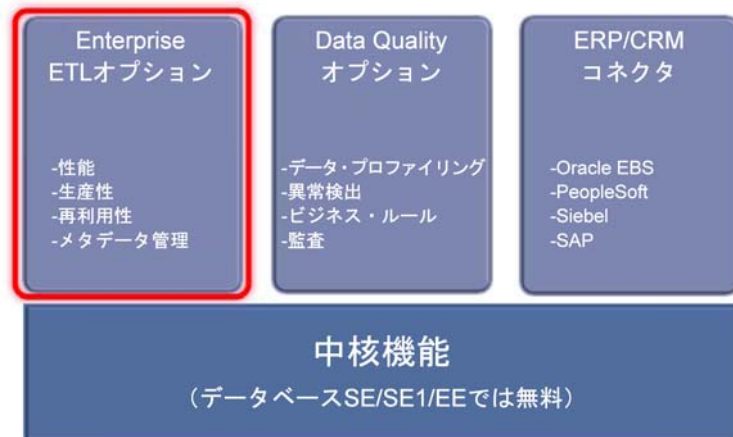


図 1 Oracle Warehouse Builder のオプション

このデータシートでは、図 1 に示す Enterprise ETL オプションのみを扱います。

高度なデータ・ロード・オプション

大規模実装の場合、ロードするデータ量が膨大なため、ますます多くのプロセスがバッチ・ウィンドウに収まらなくなっています。

Enterprise ETL オプションの一部として、Oracle Warehouse Builder を使用すると、Oracle Data Pump や Transportable Tablespace のような高速で効率的な方法を使用してデータをロードできます。これは、データベースが制御するアンロード形式でデータのバッチ全体を効果的に移動する、まったく異なるデータ移動方法です。従来の SQL レイヤーがないため、高速です。

開発者の生産性

より効率化する必要はありますか。変換の一貫性を保証し、文書化する必要はありますか。

Oracle Warehouse Builder を使用すると、プラグイン可能なマッピング機能で基礎を構築できます。この機能により、グラフィカル変換部分を作成し、多くの開発者と共有できます。

緩やかに変化するディメンションの組み込みサポート

Oracle Warehouse Builder の緩やかに変化するディメンション(SCD)の論理は、実際のディメンション・メタデータの中で設計されています。このディメンションは、入ってくるデータに適用されるすべての論理を取り込みます。

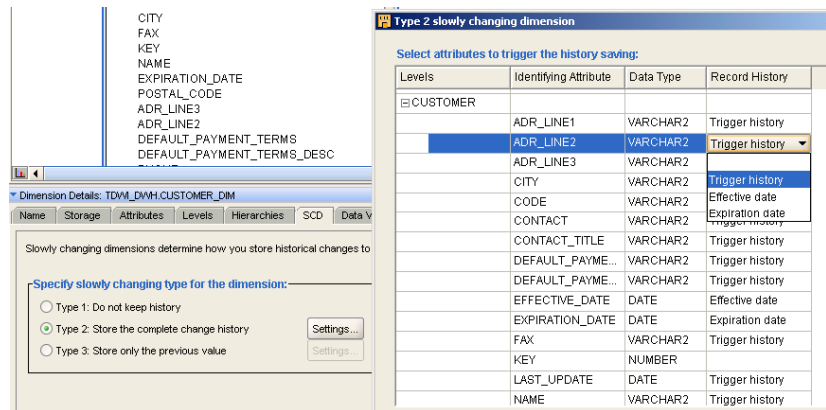


図2 緩やかに変化するディメンション

ビジネス・ユーザーが重要な属性を決定すると、データ・モデラーがディメンションを設計します。ETL ステップにおいて、開発者は、このディメンションを他の任意のディメンションと同様にとらえます。開発者は、変更や更新を処理する方法について悩む必要がありません。Oracle Warehouse Builder が、ディメンションの定義に基づいて方法を自動化します。これらのステップ、設計、および標準化の組み合わせにより、緩やかに変化するディメンションを大幅に高速処理できます。

エンドツーエンドのデータ系統

Oracle Warehouse Builderの依存性管理サービスを通じて、システム内のメタデータの変化の波及効果を発見し、メタデータの変化によるシステム停止を防止できます。

ENTERPRISE ETL オプション

主な機能と利点

- 高度なデータ・ロード・オプション
- 再利用可能なコンポーネントによる開発者の生産性
- 緩やかに変化するディメンション管理を内蔵
- エンドツーエンドのデータ系統および影響
- 高度な構成管理のサポート

関連製品

次の Oracle 製品が使用できます。

- Oracle Warehouse Builder Data Quality オプション
- Oracle Warehouse Builder コネクタ (SAP、PeopleSoft、Siebel および Oracle E-Business Suite)
- Oracle Database
- Oracle Partitioning
- Oracle OLAP
- Oracle Transparent Gateways

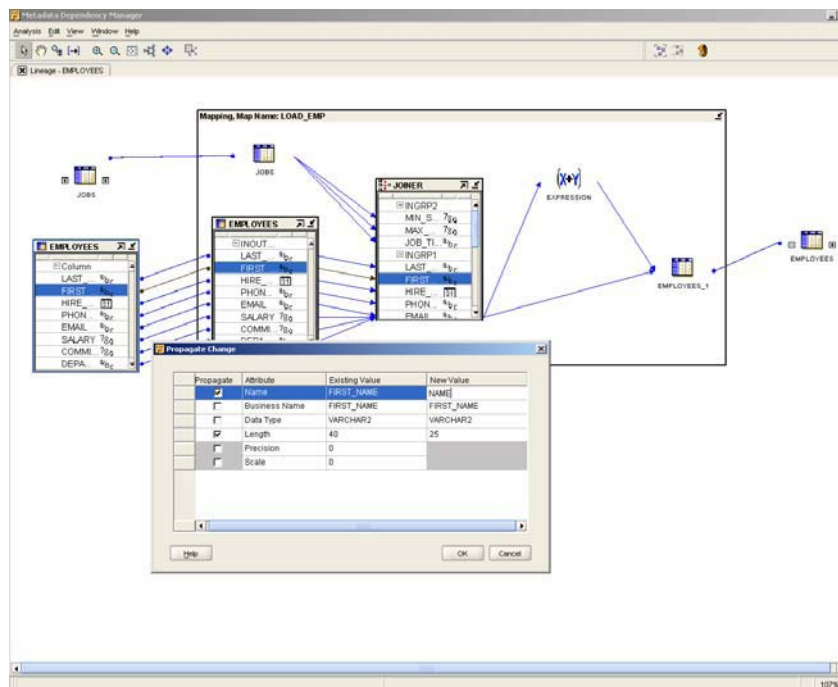


図3 システム内の変化の伝播

初めてシステム内の変化を予防的に管理できるようになります。たとえば、図3の場合、マッピング・エディタの中でシステム全体に変化を伝播できます。

高度な構成管理

ある環境から別の環境へ（たとえば、開発環境から稼働環境へ）システムやアプリケーションを移動する作業は、頻繁に直面する課題です。

Oracle Warehouse Builder で Enterprise ETL オプションを使用すると、別々のレベルでこれらの環境をセットアップするためのモデルが提供されるので、設計の論理を維持できます。開発構成または稼働構成を適用することで、実際に生成されるコードが特定の領域で変更されます。たとえば、（稼働構成で登録した）接続情報が、元の開発情報で置き換えられます。

Copyright 2007 Oracle. All Rights Reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否定し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、および Siebel は、米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。